

復興道路・復興支援道路の整備は順調に進捗 ～被災地の復興に大きく貢献～

東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして、国土交通省が中心となって整備を進めている復興道路・復興支援道路550kmについて、現在の進捗状況および平成30年度全線開通を予定している東北横断自動車道釜石秋田線の開通後の交通状況、ストック効果事例をお知らせします。

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

<進捗状況>

- 全体550kmのうち、開通済み、または開通見通しを公表済みの区間が503km・約9割となっています。
- 復興道路・復興支援道路の開通延長は約268km（約49%）、うち震災後に14区間・約108kmが開通しています。

<東北横断自動車道釜石秋田線の交通状況、効果事例>

1) 交通状況

- 順次開通により、利用交通量は約4割増加
- 釜石市～花巻市の所要時間が約20分短縮

2) 効果事例

- ①釜石港のコンテナ取扱量・利用企業数の増加に貢献
- ②企業の増設・新設が進み、工業団地の拡張も決定
- ③自動車関連部品の輸送効率化を支援
- ④内陸と沿岸を結ぶ周遊観光が促進し、インバウンド観光も増加

今後も復興道路・復興支援道路の開通効果事例について、適宜報告していきます。

<発表記者会：青森県政記者会／岩手県政記者クラブ／宮城県政記者会／福島県政記者クラブ／東北電力記者会／東北専門記者会>

問い合わせ

国土交通省 東北地方整備局 TEL：022-225-2171（代表）

道路部 道路計画第二課 課長 あかもり 赤森 みつる 充（内線4251）

復興道路・復興支援道路の開通見通し

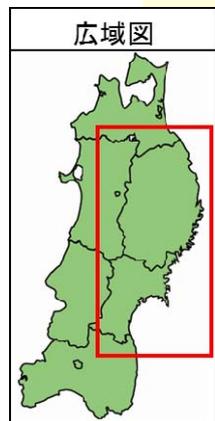
■ 復興道路・復興支援道路で、国土交通省が中心となって整備を進めている路線全体550kmのうち、開通済み、または開通見通しを公表済みの区間が、503km・約9割

路線名	計画延長	開通延長 (震災時)	開通延長 (震災時～ H28年度末)	開通予定			
				H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
三陸沿岸道路	359km	129km	41km	35km	59km	7km	50km
宮古盛岡横断道路	66km	1km	23km	0km	4km	5km	26km
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	80km	30km	33km	0km	17km	0km	0km
東北中央道 (相馬～福島)	45km	0km	11km	17km	6km	0km	9km
計	550km	160km	108km	52km	86km	12km	85km

青森県内 延長約20km

岩手県内 延長約213km

【復興道路】三陸沿岸道路 延長約359km



【復興支援道路】

宮古盛岡横断道路 延長約66km

都南川目 区界～ 川井～ 下川井 墓目～ 宮古西
道路 築川 箱石 地区 腹帯 道路
H31 H32 H32 H31 H32 H32

3.4km 8.0km 7.0km 2.0km 7.0km 4.0km

普代 尾肝要 8.0km 尾肝要～普代 H32

岩泉龍泉洞 田老(2)～岩泉龍泉洞 H29

田老(2) 宮古中央～田老(2) H32

宮古中央 宮古南 山田～宮古南 H29

山田 大槌～山田南 H30

山田南 大槌 釜石北～大槌 H31

釜石北 釜石両石 釜石JCT 吉浜～釜石両石 H30

【復興支援道路】

東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻)延長約80km

遠野住田～遠野 H30 釜石JCT～釜石西 H30

11.0km 6.0km

遠野 遠野住田 釜石西

【復興支援道路】

宮城県北高速幹線道路 延長約20km

築館(Ⅳ期) 佐沼(Ⅲ期) 中田(Ⅱ期)

H30 H32 H29

1.7km 3.6km 4.7km

岩手県

陸前高田 唐桑北 唐桑北～陸前高田 H30

気仙沼港 気仙沼 大谷～気仙沼 H29

本吉 歌津 本吉～大谷 H30

歌津 卵名沢～本吉 H32

歌津 歌津～卵名沢 H30

南三陸海岸 南三陸海岸～歌津 H29

【復興支援道路】

東北中央自動車道(相馬～福島) 延長約45km

国道4号～福島北JCT H32 2.0km

霊山～福島保原線 H32 7.4km

霊山 相馬玉野～霊山 H29 17.0km

相馬～相馬山上 H30 6.0km

宮城県内 延長約126km

※1:各区間の年度は開通予定年度を示す
※2:IC、JCT名称は、仮称を含む

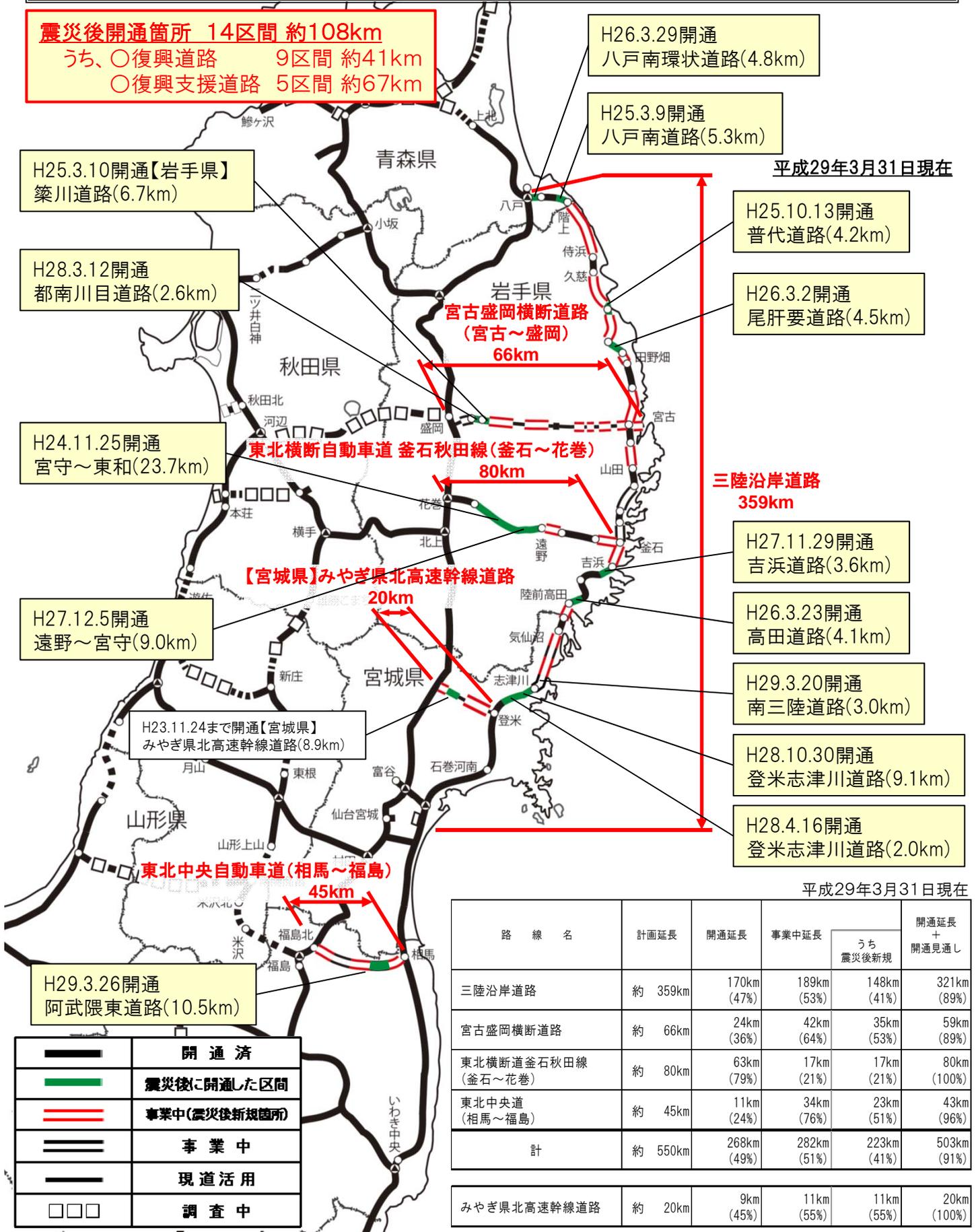
凡 例	
	開通済
	事業中(開通見通し公表)
	事業中(開通見通し未公表)
	現道活用区間
	IC、JCT



復興道路・復興支援道路の震災後開通箇所

復興道路・復興支援道路で、国土交通省が中心となって整備を進めている路線
全長約550kmのうち開通延長は約268km、うち震災後に約108kmが開通

震災後開通箇所 14区間 約108km
うち、○復興道路 9区間 約41km
○復興支援道路 5区間 約67km

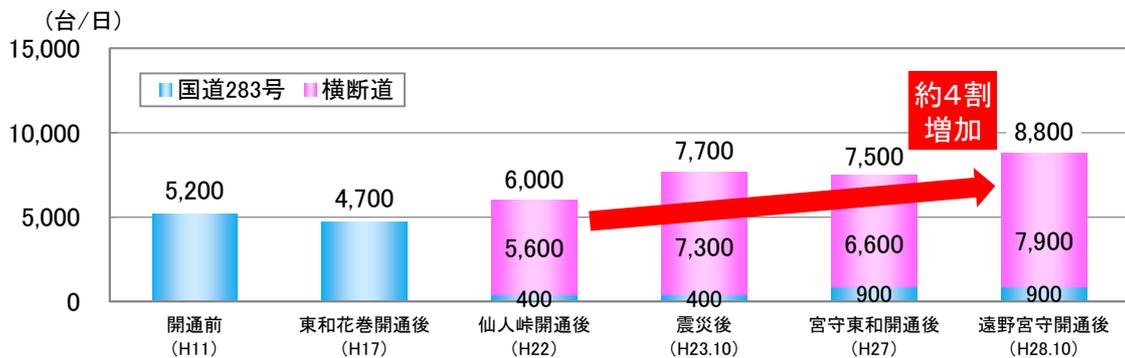


東北横断自動車道釜石秋田線の交通状況

- 順次開通により、利用交通量は約4割増加
- 釜石市～花巻市の所要時間が約20分短縮

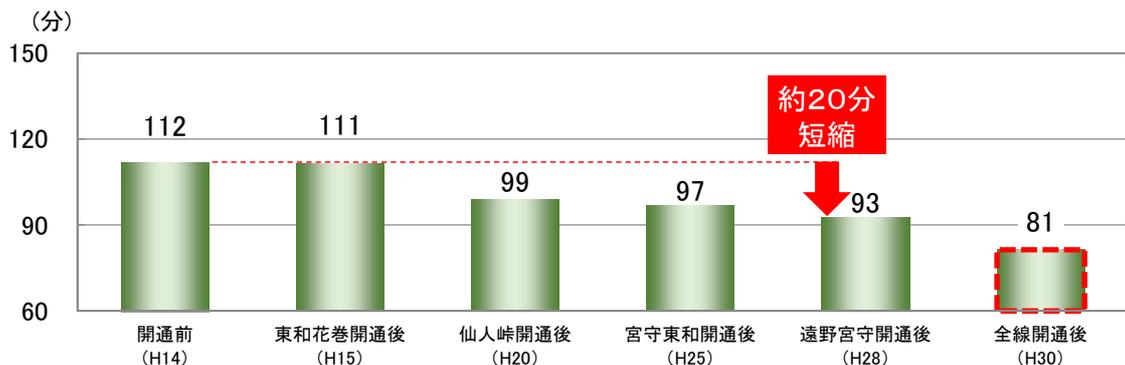


■開通後の交通量の変化



- ・交通量は仙人峠道路(釜石西IC(仮)～滝観洞IC)の区間
- ・道路交通センサス(H11、H17、H22、H27)、横断道本線トラカンデータ(H23.10、H28.10平日平均)
- ・国道283号のH23.10はH22値を準用。H28.10はH27値を準用。

■開通後の所要時間の変化(釜石市役所～花巻市役所)



資料：H22道路交通センサス 昼間非混雑時旅行速度を基に算出。将来は道路構造に応じた速度で算出。

東北横断自動車道釜石秋田線の効果事例

①釜石港のコンテナ取扱量・利用企業数の増加に貢献

- ・宮守IC～江刺田瀬ICでは、4年前に比べ、交通量が約1.5倍増加。
- ・東北横断道の整備とともに、釜石港の一般貨物コンテナ取扱量・利用企業数が増加。
- ・釜石市への新規企業進出・設備投資に伴い、法人市民税も大幅増加。

▼内陸部と釜石港の物流ルート



▼宮守IC～江刺田瀬ICの交通量の変化



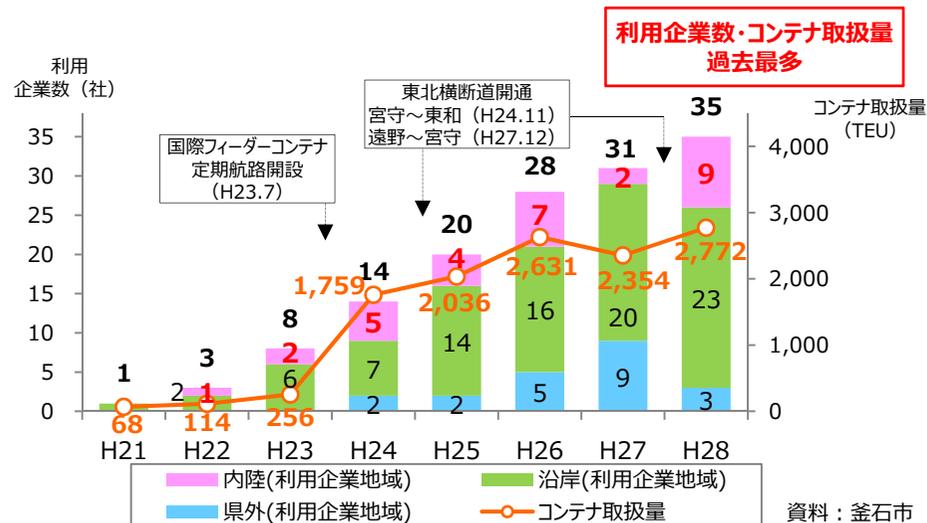
H24年に比べ、
約3,300台増加
約1.5倍増加



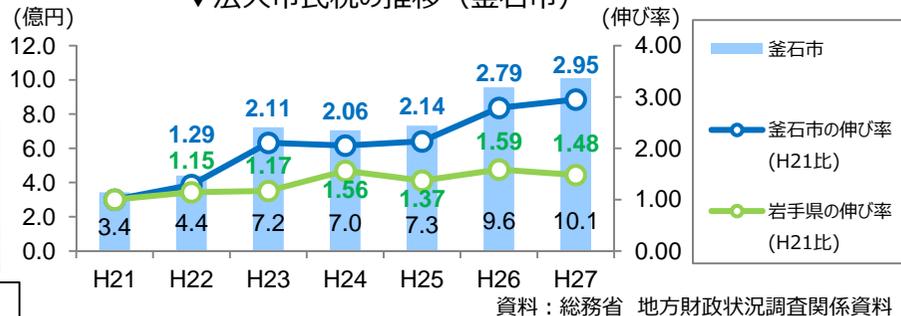
＜釜石港の今後の動き＞

- ・ガントリークレーン1基増設予定 (H29年9月稼働予定)
- ・国際コンテナ定期航路開設 (H29年秋より定期航行)

▼釜石港利用企業数・一般貨物コンテナ取扱量の推移



▼法人市民税の推移 (釜石市)



《新たに釜石港を利用した企業の声》

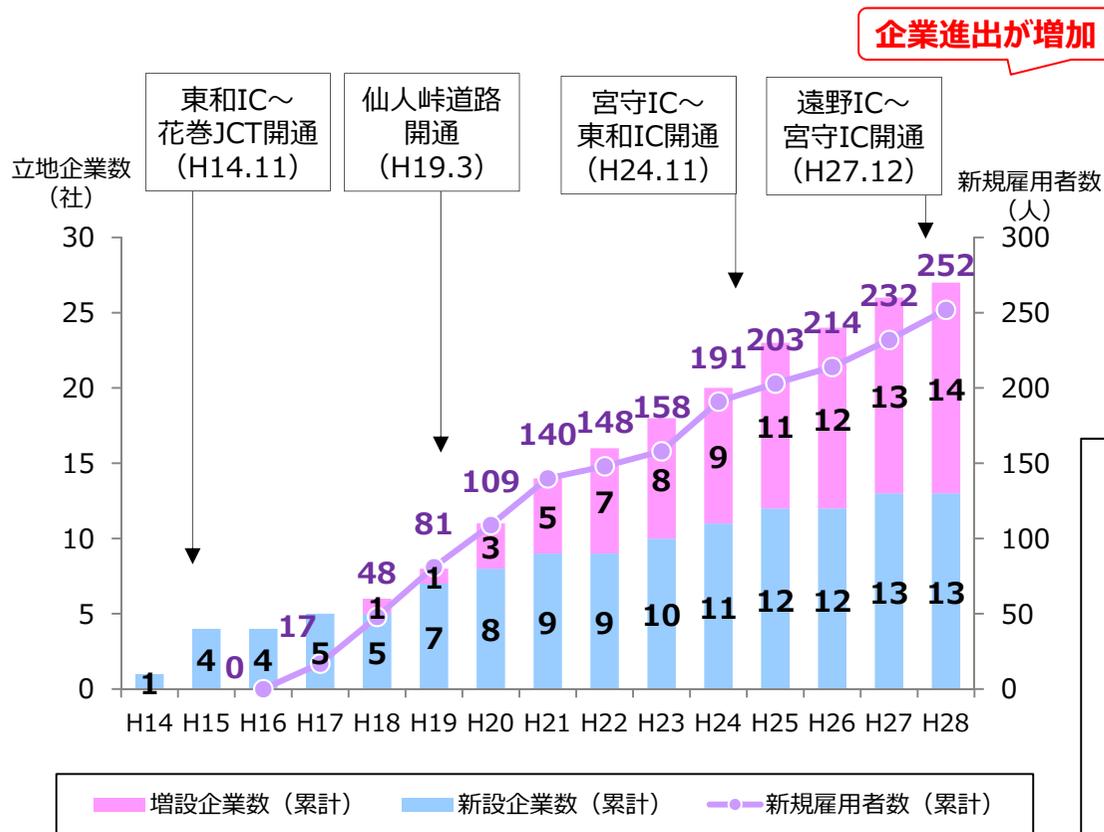
◆ **道路の開通によって釜石港の利用を決定**しました。

(H28.12 企業ヒアリング調査結果(H28新規釜石港利用企業))

②企業の増設・新設が進み、工業団地の拡張も決定

- ・東北横断道の順次開通により、遠野市へ企業の進出が増加。これに伴い、新たな雇用を創出。
- ・遠野IC～宮守IC間開通後に遠野東工業団地の拡張整備が決定。

▼遠野市へ増設した企業数・新規雇用者数（累計値）の推移



出典：遠野市（H28年度は見込）

《遠野市へ増設した会社》

- ◆道路の開通をきっかけに設備投資を行いました。

(H28.12 企業ヒアリング調査結果)



■遠野東工業団地

- ・既存工業団地売却済み・拡張整備を決定
(H31年造成着手、H32～H37年までの完了を目標)



《遠野市の声》

- ◆道路の順次開通に伴い、遠野市へ工場の増設・新設が増加しています。
- ◆平成27年3月に既存工業団地が完売し、平成28年3月には遠野東工業団地の拡張整備を決定しました。更なる雇用の場の確保のため、工業団地整備に取り組んでいます。

(H29.3 ヒアリング調査結果)

③自動車関連部品の輸送効率化を支援（更に1往復可能へ）

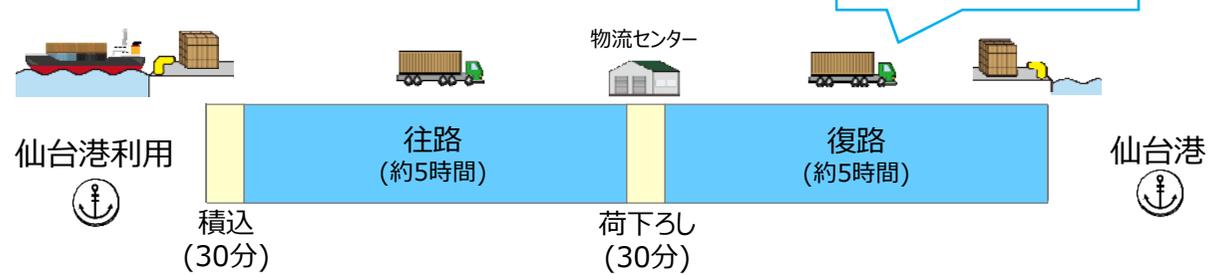
- ・自動車の電源供給等に用いられる部品を、製造拠点の1つである東南アジア（ベトナム、フィリピン等）から輸入。東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～花巻)の順次開通により、仙台港から釜石港へ輸送ルートを変更。
- ・陸上輸送時間の短縮により更に1往復が可能となる等、輸送コストが削減し、輸送効率化を支援。

▼輸送ルート

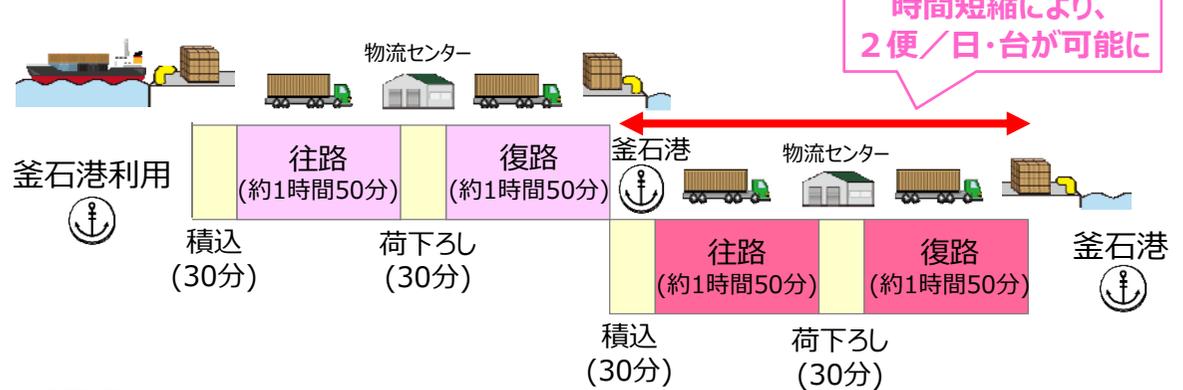


▼輸送時間の変化

開通前（仙台港利用）



開通後（釜石港利用）



所要時間

- ・開通前：仙台港～金ヶ崎町、H28.12企業ヒアリングより、開通後：釜石港～金ヶ崎町、H22センサス非混雑時旅行速度より算出
- ・積み込み・荷下ろし時間を30分と仮定

《企業の声》

- ◆釜石市と海運会社による航路誘致の協力もあり、釜石港の利用へ変更しました。変更は**東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～花巻)の開通が大きな理由**です。
- ◆横断道の全線整備によって、更なる輸送効率化に期待しています。
- ◆横断道の利用により、所要時間の短縮が図られコスト削減へ役立っています。

(H28.12 企業ヒアリング調査結果)

